

インドの小売部門はどのような果実を輸入したいのか?

FreshPlaza 2023年9月22日

3千の小売店に供給する果実・野菜輸入業者へのインタビュー

インドは世界で最も人口の多い国である。その人口は14億2,800万人と推定されており、中国より約300万人多い。消費者には明らかにさまざまなタイプがあり、その中には特に海外産の特定の水準の品質の果実や野菜を好み、驚くべき購買力を持つ数億人が含まれている。

これらのダイナミクスを理解するため、レンツォ・ピラッチーニ代表が率いるマクフルト(Macfrut イタリアの青果物見本市)の代表団は最近、リライアンスグループ(Reliance Group)のサウラブ・ライナ輸入部長と面会した。

多くの分野で事業を展開し、同じ名前のスーパーマーケットを所有する産業グループであるリライアンスの本社はニュームンバイにあり、合計3万人の従業員がいる。

グループの売上高は1千億ドルで、主な活動は石油精製所の建設であるが、インド全土に広がる3千店舗のスーパーマーケットとショッピングモールは250億ドルの売上高を生み出している。

中規模のスーパーマーケットからハイパーマーケットまで、さまざまな種類の店舗がある。グループの平均輸入量は、イタリア産のリンゴとキウイ35~40箱(訳注: 英文の誤りで35~40コンテナと思われます)である。

「インドの収穫が終わるとイタリアのブドウの輸入にも関心がある。インドでのブドウの収穫は1月から4月に行われる」とピラッチーニ氏は言う。

同氏は、「インドでは現代的な小売業の市場シェアはまだ10%であるため、すべてのスーパーマーケットチェーンについて見通しは良好である。14億人以上の人口があり、その数は印象的である。スーパーマーケットから小さな店までさまざまな種類の店舗があり、品質は3つのレベルに分けられている」と話す。

欧州産のリンゴは輸入価格に50%の輸入税がかかり、キウイには33%の輸入関税がかかる。ブルーベリーにも33%の輸入税がかかる。

同氏は、「地元の作物と競合する従来品種の赤いリンゴの関税を維持し(インドのリンゴはすべてレッドデリシャスのような赤い品種で構成されている)、クラブ品種やゴールドデン系などの他の品種の関税を下げることも一案だろう」と提案する。

インドではリンゴは非常に一般的であり、スーパーマーケットには幅広い品揃えがある。価格はルピーで表示されている(1ルピー = 0.011ユーロ)。ロイヤルガラはキロ当たり3.95ユーロである。